



東北方面

青年團の土木請負

青森縣土木課では従來道路修繕は、請負業者一手に任じて居たが、弊害もあり且つ縣會で希望もあつたので、考究の結果道路愛護の目的で地元町村青年團に一部を請負はせる事にした所、町村青年團からの申込みが非常に多く、中には職業化しさうな傾向もあるが、土木課では元々道路愛護心涵

養の爲農村の暇な時期を利用して青年團に請負はせるもので、職業化は當初の目的にも反するから、さう云ふ考で申込んだと認められるものには絶対に許可せぬ方針である。縣土木課では之が最初の試みとして東津輕郡奥内村字夏井田青年團に請負はせた處、修繕に要する砂利は品質の良いものゝみを運び、しかも量は請負はした四十五坪より十三坪も多く運搬して奉仕的に努めてくれる等、成績頗る良好であつたから、幸先よしと今後大に奨励する考へである由。

金華山道路改修問題

宮城縣下牡鹿半島開發と交通改善の方針から、多年懸案となつてゐた、金華山道路改修問題は工費二十餘萬圓で、縣で改修することに成り關係町村から、約五萬餘圓を寄附することになつた旨は、前々號本誌で報道した通りであるが、寄附する町村中萩の濱村のみが駄々を捏ねて九千圓寄附の件を村會で否決したので、同計畫に支障を來たすことになつた、仍て鮎川村長は斯くては折角の半島開發も支障を來すといふので石の巻町長及渡の波町長を訪問し協議したが、近く石の巻、渡の波、鮎川その他の町村長は萩の濱村長を訪問して、村會に於て右寄附方決議をなさしめるやう、種々懇談する由。

地元住民や青年團が道路修補

青森縣では道路愛護の思想普及の主旨から國縣道の小破修理等は、地元で請負はしむることが出来る事としたので、第三土木管區ではその手續内容を説明して各町村の希望を集めてゐたが、約二十ヶ村から申込みあり、目下出願中或は出願手續き中のものは左記の通りである、この地元請負の價格は縣の見積り單價に比し三割減とする方針なので、百圓の工事は七十圓で請負ふこととなるのであるが、各部落は最も關係の多い道路の修理に當るのであるから、相當の成績を挙げ得るものと期待されてゐる右に就き當該管區長は語る「縣の見積り單價に比し三割減の價格でやるのであるから最初希望を申述べて來ても、其の内容を聞いて夫れでは間に合はぬと手を引いたのも

ある、元來地元が請負ふと云ふことは奉仕的精神に出發せねばならぬから、算盤に合はぬなど云ふのは既に誤つてゐるのであるからそんなのは手を引いても一向構はぬ、然るに中には價格はどうでもやりませうと美しい精神で出て來るものゝあることは、誠に喜ばしい、現に只今交渉に來てゐる、柏木町村大宇小杉の如きは其例で、之等の篤志の人々や團體の力に依つて將來は豫期の成績を挙げ得ることゝ信じてゐる」

中津輕郡船澤村の富榮、中別所、折笠各

青年團

同郡——清水村では久渡寺、小澤、悪戸

の各住民

同郡——和徳村では撫牛子、大久保の各

青年團

同郡——相馬村では五所、紙瀧澤、坂本

相馬の各馬車組合

南津輕郡大光寺村では杉館、館田の青年

團

同年——柏木町村では岩館、大坊、小杉

の青年團

東 海 方 面

岐阜市の土地區劃整理

助成規程

岐阜市では都市計畫法に基き土地區劃整理を奨励するため、これが助成費として八百八十五圓を今年度の豫算に計上し、同時に右助成に規程を制定すべく市會へ提出したが、其の内容を見るに土地區劃整理をなさんとする者に對し、市に於て工事の設計測量及認可申請等の手續きを補助し、尙工事現場監督のため技術者の派遣を申請する場合は、市から適當の技術者を派遣して、其

の監督をなましむると同時に市長は随時吏員を派して、所定の設計に對する工事施行の適否、工事施行の方法及工程、工事用料の適否、工事施行事務處理の狀態其他市長に於て、必要と認むる事項に就いて指導監督を爲ましむる事を規定してある。

國縣道の交通量調査

愛知縣土木課では、いよ／＼來年度から道路改良方針のたてなほしを爲すべく、道路の基礎調査を爲す事となつたが、その第一歩として全縣下に亘る國縣道の交通量調査を行ふ事に決し、目下土木課に於て其の方法を考究中であるが、今度の全縣下交通量調査は愛知縣に於ても始めての事で、其の規模も極めて大きく縣下全工區の總動員を行つて、急所々々に於て自動車、馬車を始め總ての交通物を詳細調査するもので、

或は地方々々の在郷軍人、青年團員等の應援も求める事となるであらう、然して縣當局では此調査に基いて從來たゞ傳統的に批判してゐた、縣下國縣道も此調査によつて等級を附し、今後の改良方針を決する筈であるから、縣下國縣道の輕重は此の調査によつて決するわけである。

愛知縣の新しい試み

「道路の共進會」

愛知縣が來年度から新しい試みとして、開催する道路共進會はいよ／＼準備全く成り、其の規定を發表したが、毎年一月一日から十二月三十一日迄を會期として行はれるもので、參加團體の作業に對する採點方法は

一 加入當時の狀況最高點二十點

イ 加入團體員一人當道路延長最も長

きもの十點

口 交通量に比し構造地質の最も劣惡なるもの五點

ハ 道路保持並交通障害物整理狀況最も劣惡なもの五點

二 道路愛護成績最高點七十點

イ 道路保持の狀況最も良好なるもの

六十點

口 交通障害物整理の狀況最も良好なるもの十點

三 勞力又は費用負擔方法の適當なるもの最高點十點

として總點數に依り順位を決するものであり、尙本共進會に就ての規定は大體次の通りである。

規定

一本會に加入し得るものは市町村、在郷

軍人分會、青年團、消防組等、市町村

を一區域とする團體とす但前項團體の外知事に於て適當と認めたる團體は特に加せしむることあるべし

一本會は毎年一月一日より十二月三十一日迄を以て一會期とす

一本會加入團體、左の事業を行ふものとす

- 一 路面の保持
- 二 排水の整備

三 交通障害物の整理

四 災害時に於ける防備

一本會に加入せむとする團體は毎年十二月三十一日迄に左の事項を具し所轄土木工區事務所を經由し知事に申出づべし

- 一 團體名及代表者名
- 二 團體組織及人員

三 審査を受くべき道路の種類及其の延

長幅員（區域内道路見取圖添付のもの）

四 事業執行の方法概要前項第三號の審査を受くべき道路は左の制限に依るものとす

一 道路の種類に不拘總延長三百間以上なること

二 市（町村）道は幅員九尺以上にして縣の認むる主要市（町村）道なること

一 審査は道路愛護の實情を調査するを目的とするも大體左の標準に依るものとす

イ 區域内道路保持の良否

ロ 交通障害物整理の良否

ハ 勞力又は費用負擔方法の適否

一 審査の結果成績優良なるものは左の五等級に分ち褒賞授與す

- 一 等賞金三百圓
- 二 等賞金二百圓
- 三 等賞金百圓
- 四 等賞金五十圓
- 五 等 褒狀

道路愛護を題材とした

作文や童謡を募る

愛知縣土木課では、縣民の道路愛護觀念養成のため、道路愛護共進會を開くこととなつた事は、前項報道の如くであるが、此の目的の貫徹を期するためには小學校兒童から行ふが最も適當なので、縣當局では近く縣下全小學校に對して、道路愛護觀念を題材とした作文及童謡を募集する事となつたが、締切期日は十月末日で作品中佳作と認むるものには賞狀を、秀逸若くは優良と認むるものには、銀製メダルを授與する筈である、尙縣當局ではこれと關連して、*スター其他の懸賞募集をもする筈である。

西尾町新道路の開鑿工事頓挫

愛知縣幡豆郡西尾町では、大字着町北部を瓦町を通じ大給町に新道路を開鑿し、北方と市街中央部との連絡を便する事とし、既に着町突當りの家屋の取拂も済み、沿道の倉庫も移轉せしめたが、其の他の住民に交渉承諾を得ず工事を開始したものであるため、移轉せず頑として居据はつてゐる者があり、工事は中途で頓挫し、その儘に放任の姿で昨今の状態では、何時竣成開通するか見込がつかず、町民間には當局の失態を非難する聲高まり理事者も困惑してゐる

道路改良工事國庫補助 に關する意見

道路改良工事國庫補助に關し、岐阜縣會議長鈴木有三氏より、これが意見書を内務

大臣に提出した。

意見

輓近自動車の發達に伴ひ、本縣下亦各地に其の普及を見、之か利用年と共に盛となり、地方産業の振興上道路改良を實行するは、刻下最大の急務に屬す、岐阜縣下に於ける道路の現状は、幅員概ね狭少にして勾配屈曲多く路面亦不良にして、自動車の利用並に一般運輸交通上支障尠ならず、是を以て本縣々民は齊しく道路の改良を熱望すること久しきも、窮乏せる本縣財政にては到底完全なる改良を施すこと能はざるのみならず、山岳部は急坂峻路多く平坦部は大川及大小支派川の爲め、橋梁の架設を要するもの頗る多きも、何れも工事至難にして多額の經費を要する實狀なるを以て、是等の改良に對しては單に地方の施設のみに

放任せず、交通上必要な府縣道々路の改良事業に對しては、之か獎勵促進の爲め國庫より補助を與へられむことを切望す。

右府縣制第四十四條に依り意見書及提出候也

大正十五年十二月八日

岐阜縣會議長 鈴木有三

内務大臣 濱口雄幸殿

近畿方面

子供達に道路で遊ぶなど

きついお達し

京都府學務部では、「今後市内の道路上で兒童を遊ばせるべからず右嚴重取締るべし」ときつい達しを出したので、市内教育界では大問題を惹き起してゐるが、此通達の起りは市内某警察署長が「市内の交通

整理上子供を道路上で遊ばせぬやう訓令を出して欲しい、雪が降れば道路で雪だるまを造らへる天気になれば棒ちぎれを持つて立ち廻りをやる、フットボールをやる、そして交通事故を惹き起さず、かうした子供達をなんとかして貰はれば、警察官は交通事故防止の責任を果すことが出来ぬ」と警察部長に談じ込み、警察部から此由を學務部に持込み今度のお達しとなつたのである。だが子供等の立場から見ると京都市内には他の都市に比べて遊戯場となし得る神社佛閣の廣場が多く各小學校にも立派な運動場が多いが、寺の庭を兒童遊園として開放されてゐるものは三條六角堂外三ヶ所だけで、其の他の社寺は子供の遊戯場としては殆んど立入禁止の状態である、また小學校の庭は種々の立入制限が定められて、一般子供の自由の遊び場ではなく結局、今度

の發令で市内大部分の子供等は遊び場を取り上げられ遠い道を公園まで遊びに行くかでなければ家の中に閉こもるより仕方ないといふ、憐れな事になつたのである。右につき市の教育課長は「都市計畫の小公園もなか／＼實現せぬ内に、かうした達しが出たので市では應急策として、小學校の運動場を現在よりもつと一般的に開放し一方社會教育係を督勵して、市内の社寺を開放して貰ふやう手續きを取り遊戯場を澤山作るやう急いでゐる」と語つた。

青年團の手で道路の愛護

兵庫縣加西郡大和村西在田村下里村倉谷の三青年團は、今回催される縣土木課主催の道路共進會第一次審査會に於て、審査委員から推賞される筈であるが前記各村は何れも從來道路愛護熱が熾んで大和村の如き

は、青少年團が協力し全員四十二名が、擔當區域を三區に分け縣道瀨加、西脇線柳山寺北條及村道延長六十七町を、西在田村も青年團百三十名が、總出で縣道瀨加、北條線及村道西在田、岩井、萬願寺線延長百五十八町を、下里村倉谷は二十四名が村道河内、倉谷線を何れも砂利、補填、路面整理小破修繕、小溝新設等の力を敬してゐる。

道路問題片附く

兵庫縣養父郡八鹿町に於ける、町會の豫算委員會に於ては道路問題に關し、町當局と委員側との意見容易に一致せず、其のため上級助役の進退問題にも及ぼんとしたが漸く委員會が終つて本會議に移り、西村委員から委員會の經過報告を行ひ、道路費問題に就ては岡町線八百六十圓、天子線三百圓、新町線五百圓、石原線八百五十圓の各

支出を以つて着手すべき事を建議し之れを可決して閉會した。

中國方面

三津口町青年團道路修理

廣島縣加茂郡三津口町青年團の道路愛護運動に就ては屢々報道したが、三月十六日にも團員の總動員をなし、同町から早田原字小松原に通ずる道路を修理した、應召團員百四十名午前七時赤鳥居前に集合し、植木團長の訓示及指示あつた後二隊に分れ、一隊は團長自ら指揮して各分擔の作業場に至り路面の修理、溝の掘揚等を熱心に行ひ昨年からは二時間も早く午後三時作業完成し、赤鳥居前に整列し人員點呼團長の訓示ありて修養國歌を合唱して解散した。

陸軍記念日をトして分會員と青年團員の道路修理

廣島縣安佐郡三入村在郷軍人分會員及青年團員約百八十名は三月十日の陸軍記念日をトし、社會奉仕の實質を向上せしめる目的と、一は又本縣道路共進會參加の爲、第八回縣道修理を午前六時から各字毎に一齊に施行した、一同は手配りして班長の指揮でスコップや鍬を採り、路面の均整、小塚の石垣の復舊、溝浚へ泥土の排除等、熱心に作業し此記念日を意義あらしめて、同九時終了した、斯くて一同は同村の中心地に集合の上、東に向ひ遙拜して記念日を祝福し、班長から訓話があつて十時散會した。

四國方面

出來上つた津田橋

徳島市津田橋開通式は二月廿七日午前十時半から津田橋上に於て舉行された。當日は申分なき天氣であつたので新橋附近は人の黒山を築いた。

徳島名物の一ヶ所とも云ふべき津田の蕪橋も愈々二十七日限り其の傍に架設し新橋通行を許さるゝ事となつたが抑々此の蕪橋の由來を聞くに

今から三十餘年前明治廿六年頃迄は今の船橋の處へ貨取渡船があつたが交通上不便で冬の寒い時などは大層困つた爲め之が架橋を論議されたものであると其の當時津田の名門たる一部の人々ば橋をかけると之れを通つて夜分他の地方から盜賊がくると反對をしたものである、併し輿論は漸次一決して時の津田新濱の戸長手塚武八氏が

村會へ諮つた處滿場一致決定し武田文平、津山進一、宮崎次太郎の三議員が委員にあげられ戸長の名で許可をうけ其の後假取に ついては現經營者塚井菊太郎氏を名義人と し久しく津田、新濱の區有財産の如き形式にて其の收入の一部を兩大字へ塚井氏より寄附し約一萬圓の積立金迄出來たもので之は今度の新橋架設に大部分寄附された。

然るに當時此の許可については前述の理由で反對者も多く郡役所へ不許可の陳情もあつたが架かつて見ると仲々便利であつた併し毎年の出水や其他構造の不完全から時々自轉車乗などが海中へ墜落し死亡者も數名を出した、橋面を通ると車などは全く雷鳴の様な音をたて、附近の人の夢をさましたものであるが之も今は昔語りとなり、前知事小幡さんの英斷であの様な立派な橋が出来たので之が爲め新舊市街ともに大いに

交通上便利となつた譯であるが、此の橋の架設は小幡知事の英斷に依り提案されたもので津田方面では前知事の功績を稱へて居る。

左に工區長談の工事の概要及當日の祝賀の辭を記す。

縣道徳島津田線瀨川筋及新濱小通川の橋梁架設工事は大正十五年度事業として各年七月起工二月二十三日之が竣功を成し得たり、而して其の工費は一萬九千九百七十

員十二尺徑間二十六尺一連及十二尺一連より成り其構造は單徑間投渡土橋として滿潮面上六尺に架し又中間道路は延長五十四間幅員十八尺なり其各々工費の内譯は津田橋中一萬六千九百八十八圓同小橋千百二圓中間道路千八百八十九圓にして使用材料の主たるもの鐵材一萬二千九百二十貫セメント百八十九樽木材二萬三千七百二十五才土石砂利二百十坪なり。

九圓、内金九千九百七十九圓に相當する橋梁上部工事は徳島市の寄附に依りたるものにして瀨川に架したるものは之を津田橋と銘名し新濱小通川のものには津田小橋と稱す、津田橋は全長三百七十八尺幅員十五尺徑間二十一尺十八連より成り其構造は鐵筋コンクリート柱とホーム桁土橋とし洪水面上七尺四寸に架し同小橋は全長三十九尺幅

由來本架橋地點は瀨川と勝浦川の流末と相通する關係上出水位高く流速亦激甚加ふるに津田海口より來る波浪の衝動強きを以て高き橋梁と其根固め特に堅固を要するも經費の關係上理想的のものたるを得ざりしが相當考案を盡し橋柱の根入を平均十五尺とし之に水道水管橋架設の爲め增加工事を施し橋柱を五本と爲し得たるを以て既往の出水高浪程度に對抗し尙餘力ある工法を

取り得たり。

本年度より着手さるべき接續道路たる徳島齊津線改修道路の幅員六間なるに對し本橋の幅員其半にも達せざるは遺憾なるも將來經費之を許せば橋脚の構造を變更せずして尙六尺の擴張を爲し能ふべき餘裕を有せしめ、工事は名東郡八萬村竹内秀太郎氏之を請負酷暑嚴寒の候を通じて終始一貫規定の期日内に之を完成し又市當局及地方有志の各位は工事に對し直接間接に指導援助を與へられ之が速成を圖つたのである。

説 辭

海潮滿々として漚てしもなく、男浪女浪の跳躍亂舞、さては渚の漣の戯れる様も心好く一眺、只渺茫たる碧水のみ、紀伊半島は霞の中に陰顯し宛ら墨繪の如く、左腕すれば淡路島は指呼の中に在るかと思へば西方僅に仰げば眉山一帶の翠峰を眺め得る勝

景、自然境である。これなん我が大徳島東端の一勢力を支配する「津田町」の姿ある。靜かに追懷すれば世の變遷とは云へ、何人も餘りに急激なる變化に轉た今昔の感に堪えないであらう。

即ち海邊の一寒村として藁葺の漁家疎に點在してゐたほんの淋しい漁村も世の變遷と共に文化の恵み浸潤し近代文化の恩澤に浴し謂ふ所の日進月歩、長足の進歩と發展を來し大徳島建設の第一階梯として併合されてより、着々市としての面目を整へつゝあり合併後幾許ならざる現在、早くも水道の布設を見るなど如實に新市街の面目を發揮し逐日殷賑を極め燥音勇ましき自動車は折るが如くに疾走馳驅し、新舊市民間の經濟運輸交通機關の爲めに萬全を期すると雖も遺憾乍ら津田橋は古き姿其の儘にして交通上不便尠からず、之が架橋を瞻望され

てゐたが今回市當局では時勢の進運に鑑み且又市の繁榮上よりするも堅牢なる橋梁に架け替への急務なるを認め莫大なる工費を投じて架け替へされ、今日目出度く竣工式を舉げられるに及んだのである。

嗚呼、思へば斯うして我が徳島市は一步一步大都市としての面目を築かれて行くのである。

おゝ津田橋、本橋の竣工に依つて當市の發展上如何許りの貢獻を齎すか當橋こそわが市東南部發展上重大なる使命を持つて居るのである、されば本橋の完成は一部のみの福音ではなく全市民の喜びである。